

# 現代國語精説

日下部重太郎著

## 第一序説

(一)

國語と國運

今から三百年餘り前にイギリスのベーコンがその論集を書いた頃には、今日のやうに盛な英語の勢力を夢にも想像することが出来なかつた。そこで、ベーコンはその論集の不朽を望んで、これを廣く後の世に傳へんがためには、ラテン語に翻譯しておくのが最もよいと考へて、さうしておいたと云ふ。然るにその後において英語は段々と世界的勢力をもち、その論集は最も廣く英語によつて讀まれてゐる。賢哲と稱へられてゐるベーコンにさへ、かやうな豫想はづれがあつたことを思へば、國家および國民の興隆に志す者は、深く、自ら卑しめるの心得ちがひを戒めなくてはならぬ。

ひるがへつて我が帝國の過去をおもふに、水戸義公の大日本史の編纂は、實に江戸時代

に特筆すべき美事偉業であつて、明治維新の實現に大なる關係のあることは言ふまでもない。その大日本史をいかなる文章で書くべきかについて、三宅觀瀾の如きは、國文で編纂すべき建議をしたが、その時の勢に制せられて、やはり漢文で書かれることになつたと云ふ。然るに明治天皇の御代において國運が大いに開け進むと共に、國語は未曾有の發達をして、明治四十五年には水戸家の許しを得て和譯大日本史までが發行されるに至つたのは、誠に國家および國民のため喜ぶべき事である。さうして將來の國語のより大いなる發達のため、國民特に學者・教育者及び經世家は大いに努める所がなくてはならぬ。

## (二)

現代國語の  
發達

明治維新このかたの大御代において我が國語が如何に發展してきたかは、およそ五つの觀察點から云ふことができる。その第一は、漢文と國語とが位置を換へたことで、前には漢文本位の教育・學問であつたのが、一變して國語本位のそれとなつた。第二は、國語の内容が段々と充實してきたことで、西洋文明の輸入として現れた譯書や著書が澤山になつたのみならず、漢文で書かれてあつた支那や印度の思想までも國語に譯されるに至つた。第三は、國語そのものの改良で、前には古代文が幅をきかせてゐたのであるが、今や國民教育を始として現代文が重んぜられ、標準語にもとづいた口語文體がますます盛に行はれ

るやうになつた。第四は、新版圖における國語の展開で、臺灣や朝鮮その他において國語を以て新に教育を施してゐる。第五は、外國人における國語の展開で、支那その他から數多の留學生が渡來し、また西洋において日本語を教へる學校を設けてゐる國々もあるやうになつたのである。

かやうに現代の國語は著しい發達をしたとは云ふものの、これは我が國における舊時代と新時代とを比較してのことである。これを對外的にイギリスやフランスやドイツの如き國々の言語や文學の勢力に比較しては、どうであるか。言語や文學の勢力の比較から云へば、殘念ながら今日では、我が國語は世界的の大國語たる名譽をうけることが出來かねる。太平洋上の三大勢力の一と云はれてゐる我が國でありながら、國語がこんな有様にあるのは何故か。英語の如きは我が國の中等教育や高等教育において普く行はれてゐるのに、米國に居る我が同胞の子弟までが日本語を學ぶ成績の擧らないと云ふのは何故か。ヨーロッパ大戰においてドイツは大敗したけれども、學術上におけるドイツ語の勢力は、我が國においても依然として持續してゐるのである。我等は世界の文化における日本の言語や文學の現状を以て、これを當然の運命としてあきらめることの出來ないどころでなく、いよいよ奮勵して、これまで世界の文化から受けた恩恵に報いるためにも、世界の文化を高めて

行くべく努力しなければならない。

もし論者があつて、國語はその國民のためのもので、何も世界的などと云ふ餘計な事を苦にするには及ばない、日本は日本だけで可いと云ふやうな反對をすると假定せんか、これは餘りに自利的、消極的、鎖國的な考といはねばならぬ。無論、我等も世界を先にして自國を後にするやうな考ではなく、第一には自國のため、第二には世界のためと考へるのである。しかも本當の自利と利他とは相待つて進むべきもので、決して一方に偏し固まつてはならぬ。その相互利益をうけるやうにしなければ、眞に國民のためにもならず、また世界のためにもならないと信ずる。そこで、我等國民は世界的大日本主義で進んで行く大方針に従はなければならない。

(三)

さて我が國語の發展を妨げてゐる主なる原因を簡明にいへば、從來の文字と言語と文章とが非常に學習に困難である事と、これを實際に使用するのに甚だ不經濟である事とである。それで國民教育と國民經濟との上から國語改良の諸問題が、明治初年以來の先覺者によつて唱へられて遂に國論となり、國家の解決しなければならぬ重大な懸案として漸次解決されつゝあるのである。その國語改良諸問題の進行を目的論と方法論とに分けて見よ

う。

こゝに目的論とは、將來に到達すべき改良の目的を立てること、方法論とは、現在から實行すべき改良の方法を立てることである。目的がなければ方法も明確に立ち難く、方法がなければ目的に到達すべき道行が確實にならない。その目的を概説すれば、

一、言語には標準語を定め、文章には標準語に據る口語文體を用ひ、以て國民普通の國語を統一すること。

二、文字には平易簡明なものを用ひて、國民の言語文章を最も便利に書きあらはし得るやうにすること。

我が國の標準語は、大體において帝都の東京語に基づいたものである。しかし東京語とも、やはり日本語の一方言であるから、その音韻や單語や語法に取捨選擇をしなければならぬ。のみならず他の諸方言の音韻や單語や語法をも取調べて、その中から標準語に採用すべきものを選ばなければならぬ。標準語の制定によつて現代語と古代語とを區別し、現代の口語文をして従前の普通文や候文に代らしめるには、文體上の整理改良を要する。しかし、いかに現代語を發達させたとしても、古代語と古典舊記とは、永遠に保存もされ特に學習もされるべきものである。

文字は平易簡明なものを用ひて國民の言語文章を最も便利に書きあらはすやうにするには、如何にすべきかと云ふ問題については、漢字節減説もあり、假名説もあり、ローマ字説もあり、新字説もある。これまでに段々と文字の優劣論が行はれてきた。文字の優劣を論ずるのはよいが、しかしそれらの文字を用ひて、より良く、または最も良く國語を書きあらはすことを努めるのが肝要である。今現に漢字節用文の必要があり、假名文やローマ字文もそれらゝ必要がある。この三種の文は現に共に道づれをして進んでゐる。さうして漢字節用によつて假名の利用が必要となり、そこで和語や字音語や外來語の假名遣などを如何に整理改良すべきかと云ふことが問題になる。

かやうなわけで、一、標準語の整理、二、文體の整理、三、常用漢字の選定と假名の利用、四、假名遣の整理、五、假名文やローマ字文の整理、などが、實際案の題目として列擧されるのである。さうして目的に向つて進むのに漸進主義と急進主義とがある。急進は動搖が大きくて實行難があり、漸進は穩健であつて實行し易い。標準語を整理するには、どれほどまで東京の方言を淘汰し、どれほどまで他の諸方言を採用するか、大和言葉の要素と外來語の要素との關係を如何にすべきかを考へなければならぬ。文體を整理するには、例へば口語文體の手紙に、從來の「拜啓、敬具」の如き用語をどれほど存續すべきかを考

へねばならぬ。また常用漢字の選定については、例へば「挨拶」を除いて「あいさつ」と假名書にし、「憧憬」を除いて「あこがれ」と言ひかへるが如きことを考へねばならぬ。假名遣は、すでに新版圖の讀本において「アサガオ、ユウビン、アソビマシヨウ」の如く發音的に改められてゐるのであるが、内地ではまだ改められてゐない。假名文やローマ字文においては、その綴りや分ち書きに整理を行はねばならぬ。

國語の整理改良を行ふと云つても、和漢の古典舊記が亡びるなどと云ふ心配は全く無用である。それは永遠に、學問としては無論の事、必要に應じて今までよりも更に深く研究しなければならぬ。また今日支那人との交際においては漢文では駄目であるから、必要に應じてその時文や白話（口語）をも學ばなければならぬ。つまり、國語の整理改良といふのは、現代および現代以後の國民が主として普通に用ひる國語について云ふのであり、和漢の古典舊記は、學問上の必要のためには永遠に原形を保存し研究するけれども、廣くこれを國民に讀ませるためには、その原形を平易な言語に書きなほすのが、國民の教育上および經濟上甚だ得策と云ふのである。

またローマ字説と云つても、その論者の意圖する所は、非愛國どころではなくて、大なる愛國心から出てゐることは疑ない。かの「ローマ字ひろめ會」を同志の人々が創立し

たのは明治卅八年で、後に西園寺公がその會頭にいられた。そのころ、ある國體論者が、皇國の大臣ともある人が、あんな會の會頭などになつてゐるとは不都合だ、神代このかたの國體を如何すると憤ると、公は、安心されよ、我等は神代このかたの皇國の言葉を外つ國人にも善くわかるやうに書ける文字をひろめる者だと諭されたので、かの論者も了解したさうである。その憤りも愛國心から起つたに相違ないが、惜しいかな鎖國的の愛國心であつたのだ。上田萬年博士もいはれたやうに、「二三十年來我が國民の一致をたもつてゐる大和言葉は、ローマ字によつて世界の各國に紹介され、さうして未來永遠不變の文壇に登錄されるのである」のだ。米國にゐる我が教育者の報知によると、在米日本人の子女は、文字がむづかしいので日本語を學ぶことをきらひ、かへつて英語を好む、しかしローマ字綴りで日本語を教へてやれば喜んで學ぶと云ふのは、もつともである。さうして我が國內でも、もはやローマ字はアラビヤ數字のやうに種々の物事に用ひられて、國民須知の文字の一種類となつてゐる。

我等は、理から云ふも情から云ふも、祖國の言葉を敬愛して國語の自主獨立を完くし、これを永遠に傳へ、かつ發達させなければならぬ。しかし外國語の要素を採つて我が國語を發達させるべき場合には、例へば「文字・學校・教育」の如き漢語や「佛・菩薩・和



尙」の如き梵語や「ガス・メートル・クリスマス」の如き西洋語などは採るべきであるが、祖國の言葉を虐げてまでも外來語を濫用してはならない。なるだけ祖國の言葉を適當に用ひるのが、好い言葉づかひであると云ふ心得で、國語を教へ國民を導くべきである。

(四)

我が日本は偉大な國である。我が日本人は偉大な國民である、さうしてます／＼偉大となり得べき國と國民である。我が皇祖天照大神は日の神と申し奉り、我が國は太平洋上から朝日のさし出る所に在るから大日本と稱へ、一系の皇統は天つ日と共に窮り無く、我が國民の心は潔白で赤誠であることをたふとび、日の丸の旗は實に我が大日本帝國を最も善く象徴してゐる。明治三年正月に政府が日の丸の旗を國旗とする布告をしてから、祝祭日などにこれを家々に掲げるやうになつた。そのころ日本に來てゐたイギリス人が、もし金で買はれるものなら、自分の全財産を擧げて日の丸の旗を買つて歸りたいと云つたのを聞いて、藤堂良駿といふ人がこれを詩に詠じたこともある。

世界において印度の神話、ギリシヤの神話などと、もてはやしてゐるが、我等は我が日本の立派な神話を持つてゐることを自覺自重すべきである。澤柳政太郎博士は、「もしイギリス人やフランス人やドイツ人が日本の如き神話をもつてゐるとしたら、どのやうにこれ

を國民教育に善用するであらう。神話はこれを小學校の初年からの兒童に教授して感興深く甚だためになるものだ。」と説かれたが、實にさうである。我が古事記や神代紀の語る所はどうか。皇祖天照大神は高天原にましまして日の神とあがめられてゐるのである。

我等の住む地球などは皆太陽を中心とする太陽系に屬し、その内で太陽より雄大なもの貴重なものはない。我が神話は、何かと我が民族精神の偉大を語つてゐるのである。

かやうに偉大な精神が公平無私の徳をそなへてゐるのは當然の事である。あるひは一時の誤解または政情や政策の都合で、外國文明に對する態度のちがつたこともないではないが、要するに、我が國は公平無私に外國文明を採用して國民文化を發達させてきた。この大精神は、おそれながら明治天皇の御製においては、

よきをとり あしきをすてゝ 外つ國に おとらぬ國と なすよしもがな

と拜誦することができる。さうして英哲横井小楠は「何ぞ富國強兵に止らんや、大義を天下に布くのみ。」と唱へたのである。また古代からして、「智仁勇」の三徳は、我が國民の深く尊んでゐる所である。かのロンドンタイムスは、明治時代の日本の大發達を以て、明治元年天地の神明への御誓文に「智識ヲ世界ニ求め大ニ皇基ヲ振起スヘシ」どのたまはせられた聖旨にもとづく歎美した。

奈良朝以前から支那の文明を入れ印度の文明を入れ、奈良朝や平安朝および近古時代において、漸次これを我が民族文化に融合させて、立派な我が國民文化の花が開いたのである。近世となつては西洋文明が傳來し、鎖國時代といへども長崎の窓口を明けて之を入れ、開國進取の大御代となつてからは、四方の戸を明けて盛に歐米の諸文明を入れてゐる。かくの如くにして我が國民の文化は遂に世界的に發達し、我が學藝・教育は、もはや世界的に發展しつゝあるのである。即ち、我が國民は先祖から代々善く國民的要素に世界的要素を融合させて、ます／＼榮えてきたのである。さうして今後はいやましにこの勢で進んで行かなければならない。

我等はその文化を主として言語と文字とで表はすのである。それで、その國民文化の發達は、この國語國文の發達如何を以てこれを知ることが出来る。その國民の文化が進めば進むほど、その國民は國語國文を尊重し、國民教育において善くこれを學習し、國民生活において善くこれを運用することに努めるのである。我が上古の歌聖人麿は、

敷島の やまとの國は 言靈の たすくる國ぞ まさきくありこそ

と詠んだのである。然るに我が現今の國語國文はいかなる有様であるか。元來、言語が本で文字は末である。言語は口で言ひ耳で聽いて善くわかるのが本當で、文章はその言語を

洗練して文字に書き表はすのが當然である。さうであるべきなのに、同音異義の語が多くて漢字で書かなければ分りかねる、假名やローマ字で書いては意味が善く通じないと云ふやうな言語の状態は、決して之を健全なものとは謂はれない。假名やローマ字に書いて見ると、いかにも國語國文の現狀に不都合な所があることを自覺し、これを整理改良しなければならぬと思はれる。西洋で文化の進んだ國々では、小學校の教育においてその國語の綴りや語法が善く學習されて、誤が甚だ少いと云ふのに、我が國では、中等教育においても随分と國語學習の時間が與へられてあるに拘らず、生徒の書く文章の文字や語法に誤が多いのみならず、高等教育を卒へた人々の文章にさへその誤が少からぬのである。小學生を始として、民衆は、いかなる思想を書くべきかと苦心するよりは、いかなる文字文章で書くべきかと苦心する事が多いと云ふ有様である。さうして尋常小學卒業ぐらゐでは無論の事、中等教育を卒へても、文字文章がむづかしいために、自國語の參考書を讀むことに苦しむと云ふ有様ではないか。また歐米諸國でライノタイプと云ふ活版の利器を用ひて新聞紙を發行してゐるのに比較すると、我が國で従來の手工法で活版を作つて新聞を發行してゐる能率は、あはれむべし僅か十幾分の一と云ふ有様である。これらの有様は、國民教育のため國民生活のため、早く改善したいものである。さしあたり、文部省の臨時國語調

査會で調査濟または調査中の常用漢字や假名遣や文體の整理改善の如きは、その適當な實施が望まれてゐる。

さて國語は國民教育において甚だ重要なものとされ、その教授時間數から云つても、諸教科中で最も多くの時間が配當されてゐる。その國語教授の效果を増し成績を擧げることには甚だ肝要である。國語の學習において耳と口と目と手との作用が何れも鍊磨を要し、いはゆる聽方と話方と讀方と書方と綴方との學習とが行はれてゐる。その中で聽方が最も根本的のもので話方の基礎となり、この二つが言語の受動發動の兩方面となり、この二つが文字に表はされて讀方と書方と綴方となるのである。眞に國語教授の成績を擧げることには容易でない。例へば話方の中でも演説の練習の如きは、先づ聽方および讀方において、聽取・朗讀・誦誦等の練習を行ふべきものである。即ち良い聽取をさせ、朗讀および誦誦等をさせて後に、始めてその應用である自由發表の演説に及ばなければ、立派な辯舌を養ふことは出来ない。即ち良模範によつて格に入り、更に格を出でて自由自在に良創作を成すのである。これは話方ならびに綴方において共に大切な事である。

今までに世界の種々の思想が入り來つたし、現にまた入り來りつゝあるので、思想問題が官民によつて共に注意され、不良思想の取締もされてゐる。國民教育では思想を善導する

のは當然である。學校では無論善思想を授けるのであるが、學校以外において不良思想に接觸することもあるから、そのおそれある不良思想については、學校で修身教授・國語教授・歴史教授等の適當な機會にこれを善導して免疫性とするのが、却て安全である。さうして個人性といひ國民性といひ人間性といひ、たがひに關聯したもので、人間性を離れて國民性も個人性もなく、個人性の發達がなくては國民性も人間性も向上するはずがない。各個人をして善く伸びさせるのには、國家の人民として世界の人類として善く融合し得るやう發達させるが可い。これが各個人をして有爲な國民として世界人類の文化の發達に貢獻せしめることになる。國民教育上の國語は、ますく偉大な國民の養成を期待してゐる。

## (五)

## 大國民の教育

近來「教育第一」の標語の聲が高く叫ばれて、地球上のすべての人々、あらゆる國々におしひろめられようとしてゐる。誠に結構なことである。無論これは、教育のみが神聖な職であるなどと云ふうぬばれの宣傳ではなく、その地球形マークに記すエスペラントが示す「Edukado unue」即ち「教育は第一に」の意の如く、教育は何人にも何事にも第一に必要である、教育は人間萬事の基礎であるの意に了解すべきである。これについて思ひ出すのは、故大隈重信侯の直話の一節である。老侯は、「天地人どれから見ても前途好望と思は

れる生民が有つても、その好望が實現されるか否かは、その教育者の覺悟如何にある。」と語られた。早稻田の學府の開山たる老侯は、無論「教育第一」の實行者であつた。

近來また「教育の機會均等」と云ふことが我が國でも唱へられてゐる。即ち、初等教育に止らないで、何人でも中等教育や高等教育をも受けたい者は受けられる制度にするといふ事で、もとより結構である。西洋の國には勞働者も大學の教育を受け得るやうに企てた所もあると云ふ。しかし實際においては、初等教育を卒へて學校を出る者が最大多數であるのである。しかしながら、それは形式的に云ふことで、これを實質的に云へば、國民教育者の指導によつて、國民教育を受けた者を、自學自習によつて中等教育や高等教育の程度にも進ませ得ると云ふ抱負を持ち實行を勵みたいと思ふ。

今から凡そ八十年前にイギリスの哲人カーライルは、その名著において、著述活版の業が興つてから後は、大學者を集めてゐる大學に學ぶ必要は大いに減少したと云つた。なるほど現今では大學者の著述がますます盛に出版され、のみならず圖書館の設けが所々方々に出來て、古今東西の名著傑作を讀み得るの便利が日々に増しつゝある。さうして山の奥や海の邊でも著譯の書籍を求める便利があるから、一般の國民を指導して良く修養させる事ができる。それにつけても國語の文字文章をなるだけ平易にして讀書の困難を減少し、

その内容を容易に知らしめ得る事が必要となる。なほ外國語獨習の道もだん／＼開けてきた今日であるから、國語を學んだ餘力を以て外國語を讀み得るやうにも仕向けたい。さうして各町村にも獨立または學校附屬の圖書館を設けて、廣く讀書修養の便利を得させたい。かうして國民教育者が見識を立て、よく指導をすれば、その中から自學自習によつて發明家も文藝家も政治家なども出て來るやうになるであらう。それにつけても、創作的氣分を國語教授等で養つておく事が肝要である。近來「教育の劃一打破」の聲も、しばしば聞き及んでゐる。しかしながら、それ／＼制度の定められてある學校では、「劃一打破」の要求は徹底的に行はれないであらう。むしろ眞の劃一打破の妙味は、今述べたやうな所に存在するであらう。